

くすのき



岡本小学校 学校だより
No.13
令和3年11月29日
『生き生き学校』



《学校教育目標》夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

つながるチーム岡小

11月20日(土)学校公開が行われました。全国的にコロナが落ち着いているとはいえ、県下では11月30日まで「基本的対策徹底期間」として、基本的な感染防止対策に取り組むこととなっているため、PTA行事「岡小フェスティバル」のみの公開とさせていただきます。「岡小フェスティバル」には、パフォーマーKERAさんにお越しいただき、パフォーマンスを通して子どもたちにコミュニケーションの楽しみ方を教えていただきました。

無言のパフォーマンスを
食い入るように見つめる
子どもたち…言葉がなくても
KERAさんの伝えたいことが
伝わっていきます。

「オー」という短い言葉
でも、声の大きさやイント
ネーション、身体表現、表出
の仕方によって、意味合いが
いろいろと異なることにも気づきました。

「言葉に思いをのせる。これがコミュニケーションの基本です」

「お金では買えないものに価値がある。本当に大切なものは、どれもお金で買えないものばかり。それを大切にしよう」

KERAさんの熱いメッセージから、「自分もできるかもしれない」と勇気をもらった子どもたちが大勢いたのではないのでしょうか。そんな手ごたえを感じています。

午後からは、クリーンクリーン作戦が行われました。今年度は趣向を新たに、全校が参加することとし、保護者と共に清掃活動や環境整備作業をすることを通して、働くことの大切さを体験することを主な目的としました。保護者の皆様には、普段なかなか手の行き届かない部分の清掃や除草作業、屋上の泥だしなどを行って



いただきました。PTA本部さんの声かけにより、総勢120名程の皆様にご協力をいただくことができ、短い時間でしたが、岡小は見違えるほどきれいになりました。職員一同心より感謝申し上げます。

また、同日、第2回学校運営連携協議会も開催されました。協議の前には、各学級の授業や「岡小フェスティバル」を参観していただき、子どもたちの様子や教室環境に対するご意見をいただきました。

- 一人ひとりの考えを集約して提示する等、先生方の授業準備がすばらしいと感じる。
- 自由に発言し合える雰囲気があり、互いに考える授業が成り立っている。
- 体育フェスティバルの表現運動では、「みんなで協力し合って一つのを創りあげる」という学校ならではの姿が見られ、とてもよかった。
- △机の上の整理整頓をしたうえで学習を進めたい(机上の水筒、使用しないタブレットの置き場所等)
- △定規等の道具やタブレットの扱い方は個人差が大きい。個に応じた指導の必要性を感じる。

良さや課題については、今後の教育活動に反映していきます。

学校公開を通して、学校は保護者や地域の皆様に支えられていることを、改めて痛感しました。今後も、「つながるチーム岡小」として、子どもたちの健全な育成を支えていきます。

学年交換授業～学び続ける教師～

体育フェスティバルが終わり、どの学年も落ち着いて勉学に励む姿が見られます。

何の変哲もないように見える2枚の写真…実は意味があります。同学年の教員同士が、互いの学級を交換して授業を行っています。いわゆる学年交換授業です。また、学習内容によっては、その道に通じたゲストティーチャーを迎えて、授業をする取組も随時行っています。最近では、栄養士が6年生の家庭科の授業支援を、岡本中学校の教員が6年生の保健体育の授業支援を行いました。

複数の教師によって多面的に児童理解を深めること、教師の授業準備の効率化が図られることで教材研究をさらに深められ、授業の質の向上を図ること、これらのことを意図して教職員自ら計画実践しています。



「新しい制服」展示会

令和5年度から着用開始予定の「新しい制服」の展示会が、11月17日～24日の期間で行われました。

「今後の制服のあり方」検討委員会で「新しい制服」についての検討を重ね、3つのデザインに絞り込まれました。現在5年生の子どもたちにとっては、まさしく自分事になるので興味津々です。

「私は、この制服がいいと思う。なぜなら、『洗濯をしても翌日に濁く』って書いてあるから」そんな声が聞こえてきました。デザインだけでなく、機能性にも着目していることに感銘です。

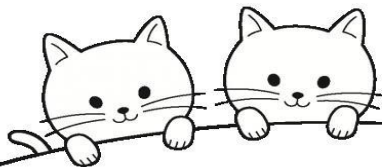
今後は、「新しい制服」の決定にあたり、2月に広くアンケートを取る予定ですので、ご協力をお願いいたします。

緑の募金

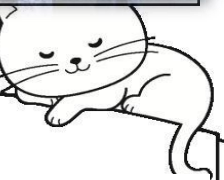
環境委員会が主催となり、緑の募金活動が行われました。日本の国土に緑を増やすための取組です。

皆さんの善意により、総額5,238円が集まりました。ご協力ありがとうございました。

環境委員会の子どもたちは、体育フェスティバル終了後も、落ち葉はきなどの活動を続けています。岡小を美しくする緑の下の力持ち的存在となっています。



わたしのひとりごと…



「プロはみんながやらない勉強をします。私はダンスを極めるために、国語辞典を使いました。例えば『回る』という言葉、いろんな意味があります。勉強したうえで、ダンスで表現できるように徹底的に練習をしました」

岡小フェスティバルでご講演されたKERAさんが、私たちに伝えてくれたことの一つです。

私も、最近気になってる言葉を調べてみました。「自立」という言葉です。

「親などの他の人やものに頼ることなく、独り立ちして書くこと」

と書かれてありました。国語辞典でもネットでも検索してみました。どれも似たような意味が書かれてありました。「自分の力で生きていけるように子どもを育ててくなくてはいけない」と、私自身もそう考えてこれまで子育てをしてきました。

でも、「頼ることなく独り立ちする」ってすごく難しいことだと感じています。子育ては順風満帆にはいきません。そんなとき、「助けてほしい」と言えたら、どんなに気が楽だったかと思えます。

最近疑問に思うこと。それは、「人に頼ることはそんなにいけないことだろうか？」ということ。本当に困ったとき、体や心がつらい時、「ちょっと休みたい。少しの間助けてほしい」と言えたらどんなに楽でしょう。自分の弱さをさらけ出すことはとても勇気がいることですが、苦しい時に助けてもらった恩は、決して忘れることはありません。自分にゆとりができた時には、別の誰かを助ける力になります。年々増加する虐待や自死の現状を見るにつけ、もちつもたれつの関係が、これからの世の中には必要に思えます。

自分で生きていくというのは、がむしゃらに自分一人でごんばる、人に迷惑をかけないで生きていくということではなく、上手に相談をして、自分にゆとりがあるときには誰かの役に立つ、そういう関わりの中で生きていくということではないかと思えます。これが、今私の考える「自立」です。

力になってくれる人は、必ずいますから。